

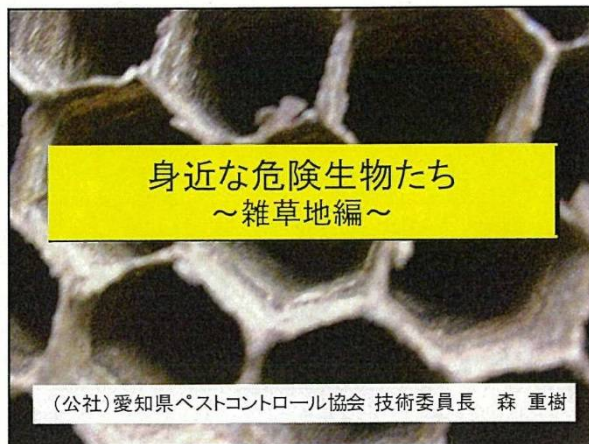
## テーマ2 危険生物・雑草地編

(公社) 愛知県ペストコントロール協会技術委員長 森 重樹

愛知県内ハチ駆除 330 件/年間実施

害虫とは、人間に対し病気媒介、アレルギー等有害性、精神的害をもたらす虫をいう。今回のフォーラム関連では雑草地=非管理地に生息する生物(害虫含む)生息地と考える。

※写真は全て当日の森さん資料から引用した。



### ●ダニの危険について



最近豚コレラが問題になっているが、イノシシ等の野生生物が人間の住まい近くに来ていることが問題である。

イノシシの「ぬた場」はイノシシがマダニを落とす場であるから「ぬた場」が近くにある周辺はマダニ類の生息の恐れがある所。

ビオトープは野生動物が来る場=ダニを落とす場と考える。マダニ類は節足動物でクモ綱に分類され脚は8本である。

通常は樹木などの葉裏に潜み、生物の振動、体温、Co2(呼気)を感じて葉表へでて動物にとりつく。爪で動物から落ちないようにしがみつき、噛んで吸血するが人間が噛まれた場合、ダニの頭が皮膚に入るので人力で除去不能のため手術し切除する。噛まれることも大変であるが近年発見された新興感染症である重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の媒介が懸念される。

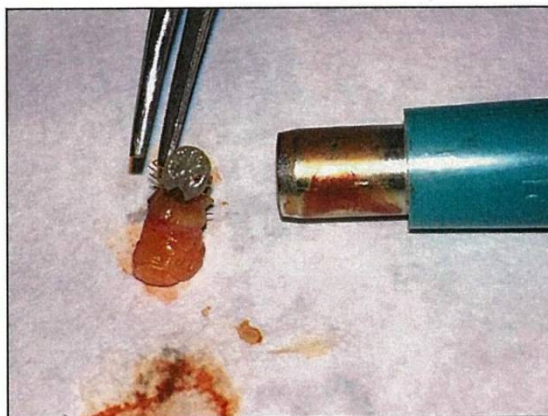
最近、過疎地で SFTS ウィルス死亡者が増加している。増加原因として過疎化で雑草管理が無理となり家屋が雑草に囲まれイノシシが餌探しに容易に家屋に接近しダニを落とし SFTS に感染というパターンが考えられる。感染死亡者はなぜか 60 歳くらいが多い。致死

率は20～30%にもなるという報告も出されている。

他の事例として①公園の野良猫に餌づけ→何らかの理由でネコに傷つけられSFTS感染。

②家庭菜園を野生動物が荒らしに来てダニを落とし住民に感染。③残飯漁りで都会へも外来野生動物（アライグマ、ハクビシンなど）が来ているのでダニ感染の恐れがある。また最近5か年くらいで増加している。殺虫剤散布が×になった影響かもしれない。

対策として、殺虫剤散布は法的にできないためダニ管理は難しい。山へ入る人は特に危険性の認識をして密閉服を着用するなどしてもらいたい。



#### ●ハチ（特にスズメバチ）の危険について



オオスズメバチは刈り草山積みの底部、巣が作りやすいような人工物、柔らかい土、堆肥場に巣を作って住む。巣のある場所にパターンはない。家屋でも思いがけないところに作っているので、どこでもハチが出る可能性がある。特に刈り草は放置すると巣を作られやすいので原則撤去しないとイケない。

しかし、スズメバチは餌がいなくなるので冬を越せない。

ハチ被害としてアレルギーショックがあるので山作業者は予防注射をしてから入山している。ボランティアでも茂みに入る場合はハチの出入りの有無を確認してからとすべき。化学物質、香水など刺激物質は山へ持ち込まないこと。

スズメバチの針は皮革でも通すので人間の着用物では防げないが、視力は弱く背景とのコントラストで目標を判断するので、目立つ服はつけず急な動きをしないこと。スズメバチはまず耳元を飛んで威嚇するので低姿勢で動かず、ゆっくり後退する。熊対応と同じと考えてよい。

しかし、全てのハチが問題というわけではない。尻の黒いハチは無害。トラ模様がスズメバチと判断してよい。写真はダニが食いついた肌を専用手術器具で取り出したところ。

●ヒアリ（外来有害生物）の危険について

最近報道が少ないが強力な毒を持っている。すでに愛知県内ではあちこちに生息しているので、見つけてもやたらに手を出さないこと。枯葉、枯れ木に巣を作る。雑草管理ができないと増加の恐れがある。